

## まえがき

「イントレランス」とは、「不寛容」という意味です。

『イントレランスの祭』という作品を書こうと思ったきっかけのひとつは、『ネットと愛国』（安田浩一著 講談社文庫）という本との出会いです。ヘイトスピーチを繰り返す集団についての徹底的なルポルタージュを読んだ僕は激しく刺激されました。そこには、憎しみや怒りや哀しみ、希望、そして、不寛容など人間のさまざまな面が描かれていました。

特に僕は、人間の「不寛容」について考え込みました。

それは、この本を読む前から、自分自身がじつに「不寛容」になっていると感じていたからです。

例えば、電車から降りる時です。駅に着いてドアが開いても、ドアの前に立ち、動かない人が

います。降りる進路をふさがれた時、無性に苛立つ自分を発見するのです。

自分の怒りの感情の強さに自分で驚き、昔はこんなにひりひりしていただろうかと思うのです。ツイッターでまったく関係のない人から突然ぞんざいな口調で突っ込まれた時も、電車の中ですぐ傍で大声で電話で話された時も、並んでいた列に割り込みされた時も、激しく苛立つ自分を自覚するのです。

そして、いつからこんなに腹を立てるようになったのだろうかと思うのです。

それが『イントレランスの祭』を書く、直接の動機でした。

『イントレランスの祭』は、まず、2012年、『虚構の劇団』の第8回公演として、次に2016年、『KOKAMI@network』の第14回公演として上演されました。

今まで、『第三舞台』の作品を『虚構の劇団』で上演することはありましたが、『虚構の劇団』の作品を、ネットワークなど外部で上演することはありませんでした。今回、2016年に上演しようと思ったのは、世界の「不寛容」の度合いがますます強くなっていると感じたからです。

このテキストは、基本的に2016年版ですが、基本的な構造は、2012年版と同じです。ネットワークの初日にあわせて出版するために、2016年の「ごあいさつ」は載せられませんでした。もし、重版する時がきたら、その時は載せられると思います。

「ホーボーズ・ソング」とは、直訳すれば「さすらい人の歌」です。日本語の「方々（ほうほう）」が語源なんじゃないかという説もあります。方々に行く人だから、さすらい人、ホーボーズです。

日本自体が、さすらっているようだなあと感じて、このタイトルにしました。サブタイトルとの関連は、「ごあいさつ」に書きました。『虚構の劇団』の第11回公演として、2015年に上演しました。

偶然にも、両方ともSFというか「もうひとつの日本」という設定になりました。

二本とも、楽しんでいただければ幸いです。ごゆっくり、お楽しみ下さい。

鴻上尚史



目次

まえがき i

虚構の劇団版『イントレランスの祭』こあいさつ

3

イントレランスの祭

『ホーボーズ・ソング——スナフキンの手紙Neo』こあいさつ

227

ホーボーズ・ソング——スナフキンの手紙Neo

あとがき または上演の手引き 453

上演記録 461



イントレランスの祭





## 虚構の劇団版『イントレランスの祭』ごあいさつ

この劇場、シアターサンモールで芝居をやらせてもらうのは、僕自身2回目です。

今から15年ほど前、オーディションをして集まってもらった若者達と共に『天使は瞳を閉じて』をベースにした『コーマ・エンジェル』という作品を上演しました。

二十代前半の堺雅人さんも出演していました。その上演後、一週間ほどで、僕は1年間のイギリス留学に出発しました。

イギリスでは『ロード・オブ・ザ・リング』でブレイクしたオーランド・ブルームがクラスメイトだったり、去年、僕の『ハルシオン・デイズ』のロンドン公演の演出助手をつとめてくれたレイモンドと知り合ったりと、楽しいことがありました。で、当然、光があれば影があるように

やっかいなこともありました。

一番のやっかいなことは、言葉の問題でした。授業中の英語は、半分ぐらいはなんとか分かりました。重要なことを話すときは、日本語でも比較的ゆっくりになるので理解できました。

けれど、休み時間になったらもうダメです。イギリス人のクラスメイトは、自分たちの速度で、自分たちのスラングで自由に話すのです。会話の90%が分からないこともありました。

最初の数週間は「日本から来たトモダチ」として、優しく扱ってくれましたが、やがて日常というバケモノの中では特別扱いがなくなりました。

話題を振られても「え？ もう一回、言ってくれない？」を連発していれば、やがて、話しかけられることもなくなります。そして、こいつに話しを振ってもムダとなれば、集団の中でぼつんと浮き上がるようになります。

イギリス人のクラスメイトを責めているわけではありません。日本人の私達だって、間違いなく同じことをするでしょう。いえ、外国人に慣れていない私達は、もっときつぱりと放り投げるかもしれません。日常生活のキャッチボールができないと、だんだんと構われなくなるものです。

最初の一カ月ぐらいは、中庭でみんなで輪になって昼食のサンドイッチをほおばりました。この時は一回発言すればなんとか参加している感じがしました。が、みんなの輪が崩れ、個人的に

2人や3人で話し込む昼食になれば、お手上げになりました。

三カ月を過ぎると、僕は休み時間はなるべく1人になるようにしました。

授業中の英語で疲れ切った頭に、さらに休み時間特有の、多様で早く難解な英語のシャワーを浴びる気持ちにはなれなかつたのです。

あえて書きませんが、授業中はがんばりました。細かい英語が分からなくても、長年の演出家の経験があるので、卑屈にもならず、時には笑いを取ったりしながらがんばりました。

だからこそ、休み時間は脳の休息のために1人になりたいと思いました。

まあ、僕は演出家なので1人には慣れていきます。稽古の後、役者たちが集まって飲みに行き、スタッフが集まって飲みに行き、ぼつんと残されることはそんなに苦痛ではありませんでした。ロンドンに行った時は、そんな生活を20年ぐらい続けていた時でした。

休み時間、誰も来ないベンチで1人になり、ほっとため息をつき、とりあえず、生き延びたと安堵しました。

けれど、もう1人の僕が「こんなことでいいのか」とつぶやくのです。「逃げていいのか。クラスメイトの輪の中に飛び込まなくていいのか」と。その声に押されて、中庭に出ると孤独が突きつけられました。軽い挨拶はしても、それ以上の深い話をクラスメイトから振られることはあ

りませんでした。クラスメイトはクラスメイトなりに気をつかってくれていたのだと思います。強烈な孤独でした。一人でベンチに座っている時より、クラスメイトが何人もいる中庭で一人であることの方がひりひりしました。

そういう時、決まって話しかけてくるクラスメイトの男性がいました。彼は、「シヨウ、大丈夫かい？」といつも微笑みました。その目には、明らかに「憐れみ」が浮かんでいました。同情する自分に対する満足感も浮かんでいました。もつとはつきり言えば、一流の白人が二流のアジア人に声をかけるといふチャリティーの匂いがありました。

と、後から冷静に分析できますが、最初にその目を見た時に感じたのは、「見下されている」感覚でした。まるでお前は主人のようで、俺は使用人のようだと直感しました。

すぐに直感確信になりました。その目で「シヨウ、大丈夫かい？」と聞かれたとき、僕は反発しながら同時に嬉しいと感じました。ひりひりとした孤独の中で、声をかけてくれた彼を味方のように感じたのです。

その感情は、衝撃でした。僕は差別に嫌悪しながら、声をかけてくれてありがとうと彼に感謝している——そんな感情が自分の中に生まれたことが驚きでした。喜びと憎悪が同居する事実。

1年間の留学の時、何度もこの感覚を経験しました。屈辱的なのに嬉しいという感情は、僕の

精神の深い部分に沈んでいきました。

今日はどうもありがとうございます。『虚構の劇団』も、旗揚げして丸五年がたちました。

大久保綾乃と高橋奈津季は人生の選択として俳優をやめると僕に話して、退団しました。変化の時期なのだと思います。

『虚構の劇団』がどこに行くのか。一作、一作、創りながら考えていくしかないのだろうと思います。今日は来てくれて、どうもありがとうございます。ごゆっくりごらん下さい。んじゃ。

鴻上尚史

●登場人物

佐渡健吾

青井蛭／藤原遥

青井蛭B (elfe)

清水良太

大石はづき

竹森和也

ツバルトキアン／伴将人

平山アピルム

黒井哲志

女子高生

警官

日本防衛隊隊員

友愛協会員

杉田義雄

バツクダンサー

女性レポーター

カメラマン

男性レポーター

(最低上演人数は9人。初演の「虚構の劇団」バージョンでは9人で上演。【KOKAMI@network】バージョンでは4人増えて、計13人。最大は、20人から30人ぐらいであろうか)

## アクト 1

竹森和也のオフィス。

平山アピルムが登場して、一礼。

紙芝居のような形で説明を始める。

一枚目、表紙は「ドキュメンタリー企画 イントレランスの祭」と手描きの文字で書いてある。

以下、紙芝居のようなヘタウマな絵を見せながら、

平山

えー、あなたも知っているように、6年前、突然、(宇宙人がやってくる絵を見せながら)地球に580万の宇宙人が難民として逃げてきました。(国連総会の絵)国連は緊急総会を開き、宇宙的博愛の立場から、難民宇宙人を受け入れることを決め、各国の割り当てを発表しました。

(各国の人数の絵)アメリカ100万人、オーストラリア120万人、ド

イツ50万人、日本は25万人の宇宙人を引き受けました。

宇宙人は自らのことを（聞き取り不明）と名乗りました。これを強引に地球の音にすると「エピクラル人」となります（「エピクラル人」の文字）。エピクラル人は故郷エピクラル星では半固体、半流体のスライム状でしたが（スライム状の絵）、地球に住むために勇気を持って地球人の姿に変身、かっこよく言うくとメタモルフォーゼしました（スライムから人間に変身する絵）。しかし、アバウトなイメージで地球人に変身した者は中途半端な形になることが多く（中途半端な地球人の絵）各地で怪物やバケモノ騒ぎを起こし、地球人との間で緊張が高まりました。

すぐに、エピクラル人は、完全な地球人の姿になるために、現在の地球人の姿を完璧にコピーし始めました（地球人そっくりにコピーして並んでいる絵）。変身には激しいエネルギーと細胞への過度の負担がかかったため、ただ一回しかできませんでした。なお、エピクラル人の気配りとしてオリジナルの地球人とはったり街で会って、オリジナルを驚かせることを避けるため（オリジナルが驚いている絵）、大阪でコピーしたら東京に、東京でコピーしたら札幌にと、生活圈を変えることが常識となりました（日本地図と転居の矢印の絵）。さらにオリジナルと区別をつけるために、ヒゲを生やしてみたり、太ってみたり、二重まぶたなどのプチ



整形を試みたり、モヒカンなどの斬新な髪形にしてみたり（各種、いろんな努力の絵）

竹森 そんなことはどーでもいい！

竹森和也が叫びながら登場。

竹森 役にも立たない情報をこまごまと喋ってんじゃねー！

平山 でも、大切なことだと思っただけ、

竹森 平山、この企画プレゼンで一番大切なことはなんだ？

平山 えっ？ それは……かまず、緊張せず、楽しくやることです。

竹森 それはお前の大切なことだ！ プレゼンで一番大切なことはなんだ？

平山 それは……なんですか？

竹森 バカかお前は！ これだから、宇宙人は使えないんだよ！

平山 宇宙人は関係ないです。僕の問題です！

竹森 口答えするなら、とっとと出て行け！ プレゼンの練習したいっていう

から、こっちはわざわざ時間作っただぞ！

平山 すみません！ 教えて下さい！ お願いします！

竹森 この番組は面白そうだって思わせることだろう！ 宇宙人のドキュメン

トなんて真面目で暗いんじゃないかって身構えている視聴者にワクワク  
ドキドキ、楽しそうだって思わせることだろう！

平山 なるほど。

竹森 なるほどじゃねえんだ！ 平山、俺はパワーポイントでプレゼン資料作

れて言ったんだぞ。なんで、紙芝居なんだ？

平山 パワポ、よく分かんないんで、ここはひとつ原点に帰ろうかと思って。

竹森 お前は、原点じゃなくて、宇宙に帰れ！

平山 そんな……

竹森 平山、このプレゼンで一番の目玉はなんだ？

平山 えっ、目玉ですか……

竹森 お前たちの新しい女王だろ！ エピクラル人の女王誕生だろ！

平山 でも、まだ決まったわけじゃないですから、

竹森 はったりでいいんだよ！ はったりかまして、企画通しやあ、テレビな

んであとはどうにでもなるんだ！

平山 なるほどのなるほど！ 竹森さん、もう一回、やらせて下さい！

竹森 宇宙人がつけあがるんじゃないねー！ そんな時間、あるか！ 取材に行く

ぞ！

平山　はい！　それなりに喜んで！

竹森、去る。

平山、慌ててついてく。

音楽！

全員が旗を持って、オープニング・ダンスのようなもの。  
やがて、暗転。

## 鴻上尚史 (こうかみ しょうじ)

1958年愛媛県生まれ。

早稲田大学法学部卒業。在学中に劇団「第三舞台」を結成、以降、作・演出を手がける。1987年「朝日のような夕日をつれて'87」で紀伊屋演劇賞、1992年「天使は瞳を閉じて」でゴールデン・アロー賞、1994年「スナフキンの手紙」で第39回岸田國土戯曲賞、2009年「虚構の劇団」旗揚げ三部作「グローブ・ジャングル」で読売文学賞戯曲賞を受賞する。2001年、劇団「第三舞台」は2011年に第三舞台封印解除&解散公演「深呼吸する惑星」を上演。現在は「KOKAMI@network」と「虚構の劇団」で活躍中。また、演劇公演の他にも、映画監督、小説家、エッセイスト、脚本家としても幅広く活躍中。近著に、「ハッシャ・バイ／ビー・ヒア・ナウ [21世紀版]」（白水社）、「コミュニケーションのレッスン」（大和書房）、「八月の犬は二度吠える」（講談社文庫）、「朝日のような夕日をつれて [21世紀版]」（ベター・ハーフ）（論創社）、「クールジャパン!?!——外国人が見たニッポン」（講談社現代新書）など。

GREEN GREEN

WORD'S & MUSIC BY RANDY SPARKS, BARRY B. MCGUIRE

©1963 NEW CHRISTYMUSIC PUBLISHING CO.

ALL RIGHTS RESERVED. USED BY PERMISSION.

PRINT RIGHTS FOR JAPAN ADMINISTERED BY YAMAHA MUSIC  
PUBLISHING, INC

JASRAC 出1604039-601

## イントレランスの祭／

ホーボーズ・ソング～スナフキンの手紙Neo～

2016年4月10日 初版第一刷印刷

2016年4月20日 初版第一刷発行

著者——鴻上尚史

発行者——森下紀夫

発行所——論創社

東京都千代田区神田神保町2-23 北井ビル

tel. 03 (3264) 5254 fax. 03 (3264) 5232

web. <http://www.ronso.co.jp/>

振替口座 00160-1-155266

装丁——図工ファイブ

組版——永井佳乃

印刷・製本——中央精版印刷

ISBN978-4-8460-1527-5 ©2016 Kokami Shoji, Printed in Japan

JASRAC 出1604039-601

落丁・乱丁本はお取り替えます。

## 朝日のような夕日をつれて

21世紀版

●鴻上尚史

演劇の歴史に残る名作、  
待望の改訂21世紀版！  
玩具会社で新商品開発に  
明け暮れる5人の姿と  
『ゴドーを待ちながら』  
(サミュエル・ベケット)  
の世界が交錯する物語。

本体2000円



## ベター・ハーフ

●鴻上尚史

「ベター・ハーフ」とは、  
自分が必要とする、もう  
一人のこと。始まりは嘘  
と誤解だった……。若い  
男女と、中年の男と、ト  
ランスジェンダーの女性  
の四人がぶつかり、笑い、  
別れ、慰め、歌い、闘う  
恋の物語。

本体2000円



## 私家版第三舞台FINAL

### ●サードステージ編

『私家版第三舞台』の続編。『スナフキンの手紙』（1994年）から『深呼吸する惑星』（2011年、解散公演）までの6作品と秘話をまじえたインタビューをオールカラーで収録。これが最後の第三舞台！

本体3000円



## 私家版第三舞台【復刻版】

### ●サードステージ編

小劇場の歴史を創った劇団、第三舞台の旗揚げから10年分（1981～1991年）のさまざまなデータと舞台等の多数の写真を収録。当時の熱気を余すところなく詰め込んだ、演劇史に残る一冊！

本体2000円



好評発売中